

羽咋市
令和5年度前期
教育委員会だより
HAKUI CITY BOARD OF EDUCATION

令和5年4月から令和5年9月までの本市の学校教育に関する取組について主なものを取りまとめました。



日航の客室乗務員と英語で会
話する羽咋市の中学生

大阪市内

大阪で「英語キャンプ」羽咋の中学生

羽咋市教委による中学生対象の「イングリッシュキャンプ」は26、27日、大阪市内で行われ、3年生22人が日本航空の客室乗務員との会話を通じて英語力を磨いた。

生徒は英語だけを使い、日本人と香港人の客室乗務員から仕事内容を聞いたり、将来の夢を発表したりした。日本と外国の文化の違いも学んだ。市が連携協定を結ぶ日本航空の協力を得て、英語力向上とキャリア教育を目的に初めて企画した。

3月28日（火）北國新聞

3月末に閉校した羽咋市余喜小出身の2〜6年生35人は4日、今春から通う邑知小に仮登校し、ともに学校生活を送る新しい仲間92人と対面した。始業式を翌日の5日に控え、児童は心を一つに邑知小の校歌を歌い、「これからよろしくね」と切磋琢磨しながら新しい母校の歴史を築いていくことを誓い合った。

式は児童も教職員もマスクを外して行われた。邑知小6年の山吹桜愛さん(11)が「みんながたくさん笑顔で楽しめる良き学校をつくっていきましよう」と歓迎。慣れない校舎で緊張していた旧余喜小の児童だが、声をそろえて「はいっ」と力強く返事した。邑知小と旧余喜小の児童が向き合って「これからよろしくね」と笑顔で固い握手を交わした。

邑知小の校舎、校名、校章、校歌を使う「編入方式」による統合で、旧余喜小の児童は3月から練習してきた校歌を歌い上げた。

教職員の新任式では、旧余喜小校長から転任した瀧田弘一校長が「学校に行きたいと心から思えるすてきな学校にしていきたい」とあいさつした。

スクールバスでの登校に慣れたいと話す旧余喜小6年の中村光来君は「余喜で学んだことを生かしてたくさん友達をつくりたい」と

閉校の羽咋・余喜小から邑知小へ

一緒に勉強「よろしくね」



「よろしく」と笑顔で握手する児童—羽咋市邑知小

新たな仲間と対面

新生活に胸を膨らませた。新しい仲間を受け入れる6年の岡本結愛さんは「一緒に勉強したり、給食を食べたりしたい」と声を弾ませた。5日に新1年生22人が入学し、全校児童は149人となる。

新聞作りで ふるさと学習



羽咋市邑知中が、パソコンなどで気軽に新聞を製作できるアプリ「ことまど」を使ったふるさと学習に力を入れている。導入1年目の昨年度は、生徒が地域住民に取材して9種類のオリジナル紙面を完成させた。このうち1点は北國新聞社などが協力を「ことまど新聞コンクール」で入賞。市教委は思考力や表現力を高める教材として期待しており、今年度も幅広く利用を呼びかける。

地域取材、コンクール入賞

「ことまどは子どもの言語能力を底上げしようと、神

戸新聞社が開発したアプリで、北國新聞社などが普及を進めている。38種類の紙面レイアウトがあり、パソコンやタブレット端末から文章、写真を入力すると本物そっくりの紙面ができる。

邑知中1〜3年生は昨年

度、総合学習の時間に「新たな特産品開発」「地域振興策」などの研究に取り組んだ。その中で、ことまどを使った紙面作りに挑戦した。コンクールで特別賞を受けたのは「地域の防災力」をテーマに調べた3年生6人の新聞。6人は昨年8月



「ことまど」で作製したオリジナル新聞を披露する生徒
—羽咋市邑知中

験教室で、簡易トイレ、ベッドを組み立てたり、避難所の運営をシミュレーションしたりした。

生徒は体験教室の企画から運営までの流れのほか、災害への意識が低い人がいることなど、防災に向けた課題を紙面にまとめた。邑知中校区には大規模地震が想定される邑知潟断層帯があり、生徒らは「新聞作りを通して防災への意識を高めることができたと思う」と話した。

ことまど新聞コンクールには全国から約700点が寄せられ、邑知中が県内で初めて入賞した。市教委は紙、電子版問わず生徒が新聞に触れることができる環境づくりを進めており、八島和彦教育長は「新聞を読むだけでなく、制作する機会を通じて考える力や表現力を養いたい」と話した。

北國新聞社は「ことまど」を県内小中学校などに販売しており、料金は1人当たり年度ごとに220円（税込み）。企業、団体が利用する際は別料金となる。問い合わせは本社編集部 076(260)3477、メールはdigital-info@hokoku.co.jp まで。

修学旅行で東京を訪れた羽中市羽咋中の3年生40人は10日、羽田空港第1ターミナルで、ふるさとの特産品や名所を売り込む特別授業に臨んだ。珠洲市で震度6強の地震が観測されて以降、奥能登を中心に宿泊キャンセルが相次ぐ中、空港利用者からは「能登頑張れ」と復興へのエールが多く寄せられた。生徒は郷土の魅力を再確認するとともに、風評被害の払拭に役立てればと「能登は元気です」とアピールした。

羽咋中3年

特別授業は修学旅行に合わせて初めて企画された。3年生112人は小松空港発の貸し切り航空機で能登半島上空を遊覧飛行した後、羽田空港に到着。このうち生徒40人が市の観光情報発信イベント「羽咋フェア」に協力した。神子原米や地酒、紅はるかチップスなどの特産品が並び、千里浜の夏の風物詩である砂像の制作実演も行われた。生徒は岸博一市長や八島和彦教育長とともに、「能登は頑張っています」「能登は

修学旅行で観光PR 空港利用者からエール

元気で」と声を掛けながら、地元の銘菓「赤飯まんじゅう」を配布した。空港利用者からは「地震からの復興を応援しています」と声を掛けられ、川崎幸香さんは「多くの人に励まされた。珠洲に届いてくれればうれしい」と話した。郷土上空を遊覧飛行

付けた。金井航輝さんは「羽咋は緑がいっぱいだった。千里浜が想像よりも広くて驚いた」と声を弾ませた。3年生の修学旅行は2泊3日、12日には姉妹都市である群馬県藤岡市を初めて訪問する。羽咋中の2年生も小松空港発着の貸し切り航空機で遊覧飛行を体験した。



羽田で「能登は元気」

「能登は元気です」とアピールする羽咋中生徒
—羽田空港第1ターミナル

開設した適応指導教室を見学する岸市長（左）

＝羽咋市の旧余喜小校舎



の小中学生を受け入れる適応指導教室を設けた。専属の指導員2人が生活習慣改善や学習を支援する。

これまで羽咋小に指導教室はあったが、中学生は対象外だった。同所で行われた開室式では岸博一市長らが看板を掲げ、教室を見学した。指導する西村保さん（68）と櫻井紀世美さん（57）は「気軽に利用してほしい」と話した。

不登校の小中生向け
旧小学校に指導教室

羽咋市が設置

羽咋市は1日、3月末で
閉校した旧余喜小に不登校

6月2日（金）北國新聞

姉妹都市で千里浜発信

3年生が観光チーム結成

羽咋市邑知中の3年生38人は8月、修学旅行先の姉妹都市・群馬県藤岡市で、千里浜海岸の魅力を発信する。総合学習で、地元の名所をPRしてにぎわい創出を目指す「観光チーム」を結成。千里浜海岸を舞台にしたバイクイベント「SSTR」（北國新聞社後援）や夏の風物詩となっている砂像などを紹介する計画で、自分の言葉で魅力を語れるよう、ふるさと学習を深めている。

8月に出発

修学旅行は8月30日から2泊3日で行われ、生徒は藤岡市のほか、国会議事堂や東京ディズニーランドを訪れる。夏休み中の8月末であることから、初日に訪れる藤岡市では、大勢の観光客や家族連れらでにぎわ

羽咋・邑知中

修学旅行先の群馬・藤岡市で



う道の駅「ららん藤岡」で、地元羽咋への誘客活動に取組むことになった。千里浜海岸をテーマに選

本紙電子版を活用 海岸浸食も学習

んだ4人は、北國新聞の電子版「北國新聞デジタル」を活用し、海岸の浸食問題や海洋ごみ問題についてノートにまとめている。SSTRの参加ライターや千里浜砂像協会の古永健雄会長(52)にインタビューし、魅力の発掘に取り組んでいる。

堀田湊大さん(14)は、活動に向けて千里浜海岸を訪れた。「地元でも海岸に来たのは3年ぶり。実際に訪れないと気付けない発見があった。目で見た感動を伝えたい」と話した。

同校と地元の農産物直売所「神子の里」などが共同開発したもなか菓子「神喰羽糧」や羽咋の獅子舞をテーマに選んだ生徒もいる。観光パンフレットを制作する計画で、杉中倅菜さん(14)は「羽咋のいいところを多くの人に知ってもらいたい」と意気込んだ。

古永会長(左)に砂像の制作工程をインタビューする生徒

羽咋市千里浜海岸

日蓮宗本山妙成寺（羽咋市）の国宝指定に向けた機運を高めようと、市教委の職員20人が15日、「妙成寺 国宝に！」と書かれたそろいのポロシャツを着用して業務に当たった。

赤色のポロシャツには、背中側に五重塔と夕日がデザインされた。左胸には「やる気満々！」の文字を添えた。17日にコスモアイル羽咋で

羽咋市 そろいの赤シャツで「妙成寺を国宝に」



妙成寺の国宝指定を目指して作製したポロシャツ。羽咋市役所

日蓮宗本山妙成寺（羽咋市滝谷町）の国宝指定に向けた機運を高めるため、市教委は毎週月曜を「妙成寺デー」に設定し、全職員が「妙成寺 国宝に！」

月曜は妙成寺デー 羽咋市 赤シャツで業務



赤いポロシャツとのほりを作製した羽咋市教委の関係者
羽咋市滝谷町の妙成寺

と書かれた赤いポロシャツで業務に当たる取り組みを始めた。のほりも用意して運動を盛り上げている。ポロシャツは、6月17日

に市内で開かれたシンポジウム「妙成寺を国宝に」（北國新聞社後援）に合わせて作製。背中側に五重塔と夕日がデザインされ、左胸には「やる気満々！」の文字を添えている。市内で開かれるイベントなどでも着用する。

妙成寺では今月中にも国重要文化財・五重塔の屋根修復工事が始まる。八島和彦教育長は「地元の興味関心を高め、妙成寺の価値を発信したい」と話した。

開かれる一般財団法人北國総合研究所のシンポジウム「妙成寺を国宝に」（北國新聞社後援）に合わせてポロシャツを作製した。会場では国

あすシンポジウム

宝指定を目指す応援歌が披露される予定で、八島和彦教育長は「国、県と連携しながら運動を盛り上げたい」と話した。

6月16日（金）北國新聞

7月21日（金）北國新聞

全国学力テスト 県内概要

羽咋市 全教科で5%以上 県平均を上回る

石川県教委は、4月に行われた全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）の県内の結果概要をまとめた。19市町別の平均正答率と県平均との差では、羽咋市が全5教科、宝達志水町が3教科でそれぞれ5%以上高く、全国トップクラスだった石川の成績の中で際立った。地区別では中能登地区で好成績が目立った。県教委は結果の概要をまとめた冊子を市町教委、各学校に配布し、課題克服に活用してもらった。

全国学力テストは小学6教科で4月に実施し、7月1日の国語、算数、中学3年の国語、数学、英語の5教科の結果を公表した。石川の平均正答率は小学6年の国語72%、算数67%、中学3年の国語73%、数学56%、英語56%。

全国学力テストの市町別成績

(県平均との比較)	小学6年		中学3年		
	国語	算数	国語	数学	英語
珠洲市	▲	▲	▲	▲	▲
輪島市	▲	▲	▲	▲	▲
能登町	▲	▲	▲	▲	▲
穴水町	▲	▲	▲	▲	▲
七尾市	▲	▲	▲	▲	▲
中能登町	▲	▲	▲	▲	▲
志賀町	▲	▲	▲	▲	▲
羽咋市	▲	▲	▲	▲	▲
宝達志水町	▲	▲	▲	▲	▲
かほく市	▲	▲	▲	▲	▲
津幡町	▲	▲	▲	▲	▲
内灘町	▲	▲	▲	▲	▲
金沢市	▲	▲	▲	▲	▲
野々市市	▲	▲	▲	▲	▲
白山市	▲	▲	▲	▲	▲
川北町	▲	▲	▲	▲	▲
能美市	▲	▲	▲	▲	▲
小松市	▲	▲	▲	▲	▲
加賀市	▲	▲	▲	▲	▲

※ ▲ 5%以上プラス、▲ 2%以上5%未満プラス
 ▲ 差が2%未満、▲ 2%以上5%未満マイナス
 ▼ 5%以上マイナス

全国学力・学習状況調査 文部科学省が全国の小学6年、中学3年を対象に毎年実施している学力テスト。国語、算数（数学）のほか、3年に1度理科と英語も実施し、学習意欲や生活習慣などを尋ねる調査も行う。全国的な学力の把握と、学校での指導改善につなげるのが目的。2007年度に43年ぶりに始まり、11年度は東日本大震災、20年度は新型コロナウイルスの影響で中止した。



宝達志水町は3教科 中能登地区高く

英語49%で、小6国語・算数、中3数学の3教科で全国1位だった。中3国語は2位、同英語は4位と上位だった。県教委は、市町別の正答率を県平均と比較し、プラス5%以上を「上回る」、プラス2〜5%を「やや上回る」、プラスマイナス2%未満を「同程度」、マイナス2%〜マイナス5%を「やや下回る」、5%以上マイナスを「下回る」と5段階に分類した。羽咋市は全5教科が県平均と比べて5%超のプラスで、全教科で「上回る」となったのは5回連続となった。宝達志水町は小6国語・算数、中3英語の3教科で「上回る」となり、残る中3国語は「やや上回る」、同数学は「同程度」だった。

北國新聞を授業に活用

羽咋市は児童生徒の「考える力」の育成に取り組んでいる。積極的に教育のデジタル化を進め、北國新聞の電子版を取り入れた授業や、習熟度に合わせて問題を出題する「AIDリル」などを活用。各小中学校で学力向上プランを策定して授業改善を進めている。八島和彦教育長は新聞を活用する授業が定着しているとし、「考える力を伸ばす取り組みやきめ細かな指導が結果に表れた」と話した。

東大生招いて授業

「教育立町」を掲げる宝達志水町では、中学生向けには現役東大生や有名学習塾の講師を招いた講座、小

8月1日（火）北國新聞

効果が出ている」としている。県教委は市町別正答率を含む結果を冊子にまとめた。来年2月をめどに詳細な分析をまとめる。

藤岡市で羽咋の太鼓を披露する邑知中生徒
(市提供)



群馬・藤岡市で羽咋PR
邑知中3年生

羽咋市邑知中の3年生36人は30日、修学旅行で姉妹都市・群馬県藤岡市を初めて訪れ、地元の獅子舞や太鼓の披露などを通じて羽咋の魅力を発信した。生徒は道の駅らん藤岡で、市民に千里浜海岸に関するクイズを出したり、オリジナルの観光パンフレットを配ったりした。同校と農産物直売所「神子の里」が共同開発したもなか菓子「神喰羽糰」も配布した。

8月31日 (木) 北國新聞



130 北國新聞 創刊130年

本社白山印刷センター 見学開始

新輪転機「速い!!」

羽咋の児童51人

北國新聞社の白山印刷センター(白山市鹿島町)で8日、一般見学の受け入れが始まり、羽咋市瑞穂小と邑知小の6年生51人が、新聞制作の流れを学んだ。児童は巨大な輪転機が高速で紙面を刷り上げていく様子に「とても速い」「迫力がすごい」と驚き、人工知能(AI)を搭載した最新鋭機による印刷工程にじっとりと見入った。

子どもたちは新聞が家庭に届くまでの流れについて説明を受けた後、インクのおい漂う工場内に入り、夕刊の刷り上げを見学。無人ロボットが重さ1・3ト、長さ19mのロール状の新聞用紙を自動で搬送する様子も間近で確認した。紙が保管された倉庫では「ヨークルトのにおいがする」と声が上がリ、興味津々な様子で新築の工場を歩いた。

邑知小の今西望君(11)は「大きな紙を機械が運び、速いスピードで印刷されていくのがすごい」と感想を述べ、瑞穂小の本吉秀士郎君(12)は「きょう学んだことを家族に伝えたい。あす

白山印刷センターで北國新聞が出来上がる工程を見学する児童
――白山市鹿島町

9月9日 (土) 北國新聞

の朝刊を読むのがとても楽しみ」と声を弾ませた。白山印刷センターは北國新聞創刊130年、富山新聞創刊100年の節目に合わせて約70億円を投じて建設し、8月に全工稼働した。見学は無料で団体のみ受け付ける。希望日の2週間前までの予約が必要で、1回につき最大50人程度の受け入れが可能。時間は平日午後1時から同2時半の間となる。問い合わせ、申し込みは北國新聞社広報室 076(260)3402、koho@hokokoku.co.jp まで。



妙成寺巡り、歴史学が 羽咋・英語キャンプ

羽咋市教委と国立能登青少年交流の家による「ハクイキッズイングリッシュキャンプ」が12

日、市内で開かれた。羽咋、邑知の両小の5年生約80人が同市滝谷町の日蓮宗本山妙成寺を訪れ、国重要文化財10棟を有する古刹に理解を深めた。

児童は同行した国際交流員の

案内で境内を巡り、国宝指定を
目指す妙成寺の
歴史などを題材
にしたクイズに
英語で答えた。

境内を散策する
児童―羽咋市滝
谷町の妙成寺

9月13日（水）北國新聞

私が羽咋イングリッシュキャンプに参加して、印象に残ったことは、二つあります。一つ目は妙成寺の五重塔の迫力で、妙成寺の門から見える五重塔はとても高いなと思ったけど、目の前にすると、一つ一つ工夫がされていて、石がされていて、これは、全国や世界に広めてほしいと思ったからです。二つ目は妙成寺の工夫で、門から見える五重塔はとても高いなと思ったけど、目の前にすると、一つ一つ工夫がされていて、石がされていて、これは、全国や世界に広めてほしいと思ったからです。

工夫がいろいろ
妙成寺を国宝に

谷内 珠乃 12歳

(羽咋市・小学生)

の間から、大きな迫力ある五重塔が見えるようになっていたり、いろいろ工夫さ

9月27日（土）北國新聞